

◀ここから剥がして2枚目も必ずお読み下さい。

使用説明書

使用前には必ず本説明書を読み、注意事項を守って使用して下さい。

製法及び性状

本剤は、発育鶏卵の尿膜腔内で増殖させたニューカッスル病ウイルスと3株の鶏伝染性気管支炎ウイルス、ならびに液体培地上で増殖させたヘモフィルス・パラガリナルムA型菌、C型菌、これら6種類の不活化抗原を混合したものに、オイルアジュバントと保存剤を加えて乳化し、小分容器に分注したものである。

本剤は粘濁性のある白色の液体で、静置すると上層は淡黄白色不透明、下層は白色不透明の2層に分かれるが、振盪すれば、容易に白色の均質な懸濁液となる。

成分及び分量

○1ボトル(500mL)中

発育鶏卵培養ニューカッスル病ウイルス	石井KB株(シード)
(不活化前ウイルス量)	10 ^{8.0} EID ₅₀ 以上
発育鶏卵培養鶏伝染性気管支炎ウイルス	滋賀KB株(シード)
(不活化前ウイルス量)	10 ^{8.2} EID ₅₀ 以上
発育鶏卵培養鶏伝染性気管支炎ウイルス	AO-27株(シード)
(不活化前ウイルス量)	10 ^{8.2} EID ₅₀ 以上
発育鶏卵培養鶏伝染性気管支炎ウイルス	GN-58株(シード)
(不活化前ウイルス量)	10 ^{8.2} EID ₅₀ 以上
ヘモフィルス・パラガリナルムA型菌	No.221KB株(シード)
(不活化後総菌数)	8.0×10 ⁹ 個以上
ヘモフィルス・パラガリナルムC型菌	KA株(シード)
(不活化後総菌数)	1.0×10 ¹¹ 個以上
ホルマリン	0.6 mL
無水マンニトール・オレイン酸エステル(AMOE)	加流動パラフィン
	280.0 mL
スクワラン	70.0 mL
硫酸ゲンタマイシン	15.0 mg力価
リン酸緩衝食塩液	残量

①

効能又は効果

ニューカッスル病、鶏伝染性気管支炎、鶏伝染性コリーザの予防

用法及び用量

50日齢以上の鶏の脚部筋肉内に0.5mLを注射する。

使用上の注意

【一般的注意】

- (1) 本剤は要指示医薬品であるので獣医師等の処方せん・指示により使用すること。
- (2) 本剤は定められた用法・用量を厳守すること。
- (3) 本剤は肉用鶏(種鶏を除く)には注射しないこと。
- (4) 本剤は効能・効果において定められた目的にのみ使用すること。

【使用者に対する注意】

- (1) 誤って人に注射した場合は、患部の消毒等適切な処置をとること。誤って注射された者は、必要があれば医師の診察を受けること。その際、動物用油性アジュバント加ワクチンを誤って注射されたことを医師に告げるとともに本使用説明書を医師に示すこと。

本ワクチン成分の特徴

微生物名	抗原		アジュバント	
	人獣共通感染症の当否	微生物の生・死	有無	種類
ニューカッスル病ウイルス	当	死	有	・無水マンニトール・オレイン酸エステル
鶏伝染性気管支炎ウイルス	否	死		加流動パラフィン
ヘモフィルス・パラガリナルムA型菌	否	死		・スクワラン
ヘモフィルス・パラガリナルムC型菌	否	死		

本ワクチン株は、不活化されており感染性はない。

本ワクチンに関するお問い合わせは下記までお願いします。

株式会社 微生物化学研究所 営業部
〒611-0041 京都府宇治市横島町24、16番地
TEL: 0774-22-4519
FAX: 0774-22-4568

- (2) 事故防止のため、作業時には厚手の手袋等を着用すること。

②

動物用医薬品

500mL(1,000羽分)



国家検定合格

指定

“京都微研”ニワトリ6種混合オイルワクチン

ニューカッスル病・鶏伝染性気管支炎3価・鶏伝染性コリーザ(A・C型)混合(油性アジュバント加)不活化ワクチン(シード)

注意一獣医師等の処方せん・指示により使用すること。
貯法: 2~10℃暗所



製造番号

最終有効年月



製造販売元

株式会社 微生物化学研究所
京都府宇治市横島町24、16番地

【鶏に対する注意】

1 制限事項

- (1) 産卵開始前5週間以内や産卵中のものには注射しないこと。
- (2) 本剤の注射前には健康状態について検査し、重大な異常(重篤な疾病)を認めた場合は注射しないこと。
- (3) 鶏が、次のいずれかに該当すると認められる場合は、健康状態及び体質等を考慮し、注射の適否の判断を慎重に行うこと。
 - ・発熱、呼吸器症状、下痢、重度の皮膚疾患など臨床異常が認められるもの
 - ・疾病の治療を継続中のもの又は治療後間がないもの
 - ・明らかな栄養障害があるもの
 - ・他の薬剤投与、導入又は移動後間がないもの
- (4) 本剤の注射後、激しいストレスを与えないこと。

2 副反応

- (1) 本剤の注射後、一過性の脚の腫脹、跛行及び食欲不振を認め、鶏種によってはこの反応が強く、一時的な体重増加の抑制が認められる場合がある。
- (2) 副反応が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。

3 相互作用

本剤には他の薬剤(ワクチン)を加えて使用しないこと。

4 適用上の注意

- (1) 注射部位を厳守すること。
- (2) 注射器具は滅菌又は煮沸消毒されたものを使用すること。薬剤により消毒をした器具又は他の薬剤に使用した器具は使用しないこと(ガス滅菌によるものを除く)。なお、乾熱、高圧蒸気滅菌又は煮沸消毒等を行った場合は、室温まで冷えたものを使用すること。
- (3) 油性アジュバント加ワクチン注射に適した注射器を使用すること。
- (4) 注射部位は消毒し、注射時には注射針が血管に入っていないことを確認してから注射すること。
- (5) ワクチン容器のゴム栓は消毒し、無菌的に取扱うこと。ゴム栓を取り外しての使用は雑菌混入のおそれがあるので避けること。

③

【取扱い上の注意】

- (1) 外観又は内容に異常を認めたものは使用しないこと。
- (2) 使用期限が過ぎたものは使用しないこと。
- (3) 一度開封したワクチンは速やかに使用すること。使い残りのワクチンは雑菌の混入や効力低下のおそれがあるので、使用しないこと。
- (4) 使用時よく振り混ぜて均一とすること。また、使用中にもときどき振り混ぜること。
- (5) 本剤は粘濁度が高いため、予め常温程度(約20℃)に戻してから使用すること。
- (6) 開封時にアルミキャップの切断面で手指を切るおそれがあるので注意すること。
- (7) ガラス瓶は破損をするおそれがあるので、強い衝撃を与えないこと。プラスチック容器に対し、80℃以上の高温物あるいは鋭利なものとの接触、衝撃、過大な加重は容器を破損するおそれがあるので避けること。
- (8) 使用した器具器材は油性分が残存しないように洗浄すること。
- (9) 使い残りのワクチンは紙等で吸い取り可燃物として処分し、また、容器は地方公共団体条例等に従い処分すること。
- (10) 使用済みの注射針は、針回収用の専用容器に入れること。針回収用の容器の廃棄は、産業廃棄物収集運搬業及び産業廃棄物処分業の許可を有した業者に委託すること。

【保管上の注意】

- (1) 小児の手の届かないところに保管すること。
- (2) 直射日光、加温又は凍結は品質に影響を与えるので、避けること。

貯法及び有効期間

- 1 遮光して、2~10℃に保存すること。
- 2 有効期間は2年間(最終有効年月は容器正面に表示)

包装

ポリプロピレン(PP)容器
500mLボトル 1ボトル 500mL(1,000羽分)

④